（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	杉並区立重症心身障害児通所施設わかば			
○保護者評価実施期間	2025年12月3日	～	2025年12月26日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	13　名	（回答者数）	11　名
○従業者評価実施期間	2025年12月3日	～	2025年12月12日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	13　名	（回答者数）	13　名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの子どもに合わせた支援だけでなく様々な活動や行事においても多職種が協働して取り組んでいる。	・活動や行事は、全職種が会議に参加して検討している。 ・子どもの担当者は、支援前に計画書の内容を確認している。 ・子どものニーズ、保護者のニーズを多職種で検討している。	引き続き、出勤日数の少ない職員や会議に欠席した職員の意見が反映できるような仕組みを検討する。
2	関係機関と連携し、地域の中で他の子どもと活動する機会をつくり、地域のインクルージョンを推進している。	・保育所や児童館等と共に活動する機会をつくり、障害の有無に関わらず子どもたちが交流できるようにしている。 ・関係機関の協力を得ながら夏祭りを開催し、多くの地域住民が来場することで、障害の理解が深まるようにしている。 ・保育所等へ専門職が出向き、ケアの留意点等を伝えている。	引き続き、保育所等の職員と連携を深め、共におこなう行事企画を検討する。
3	子どもの緊急時や非常災害時等に備え、日頃から対応方法を多職種で確認し、定期的に全職員で訓練している。	・避難訓練等の課題を検証し、随時BCPに反映させている。 ・ヒヤリハット等の気づきは、毎日サービス提供後に勤務者全員で情報共有している。 ・予防接種やアレルギー等、子どもの健康面について、保護者や主治医へ随時確認している。	過去のヒヤリハット事例の傾向を整理をすすめ、現任職員ならびに新人職員の研修プログラムに取り入れる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	行事予定や連絡体制等の情報について、保護者にとって分かりにくい状況がある。	毎月、園だよりを発行して行事予定を伝えることや、一斉メールを用いて情報を伝達している。また、園のしおりに事業所からの連絡体制を記載しているが、様々な情報がとのような手段で伝わってくるのか、保護者にとって分かりにくい状況であると考える。	・園だよりの定期発行や掲示板、法人Hpを活用し、情報発信に取り組んでいきます。また、youtubeの限定公開の活用等、SNSによる情報発信についても検討していきます。
2	事故等が発生した際の連絡や対応方法について、保護者にとって分かりにくい状況がある。	登園時に小さな傷等を発見した際は、直ぐに保護者へ連絡しているが、受診を必要とする事故が発生したことは今までなく、受診が必要な場合は、どのように連絡・対応するのか、保護者にとって分かりにくい状況であると考える。	・引き続き、契約時や保護者会で説明するとともに、事故等が発生した際の対応方法について、園だよりや保護者会の中で定期的に説明するほか、個別に事故発生時の対応方法を個別訓練して手順を共有していきます。
3	こどもや家族からの相談や申入れの体制や手順が、保護者にとって分かりにくい状況がある。	親子通園や自主送迎等、事業所に直接来所する保護者については、対面で声をかける機会があるものの、併行通園等、保護者が事業所へ来所しない家庭については、声をかけにくい状況があると考える。また、オンライン面談等についてメールでご案内するものの、就労家庭では大きな困り事がないとオンライン相談を利用しにくいと考える。	・対面だけでなくオンラインも活用して、随時の個別相談や児童発達支援管理責任者や園長、専門職による面談が可能であることを園だよりで定期的に発信していきます。